「他者を思う心~自己中心が見えてくる|

●夢の中に自我を見る

細かくは覚えていませんが、最近、夢を見ていたと思いながら、目ざめるこ とがよくあります。どれも不条理な夢で、自分の居場所がないというような似 通ったものです。

最近は、高校時代の友人が出てきます。場所は、広々とした、造成されたよ うな土地だったり、大きな建築物だったり色々です。当然、高校時代のままの 姿です。

私たちは起きている間、色々なことを経験し意識します。しかし、複雑な人 間関係の中で生活していますから、その時々、自分の心の動きを自制したり、 周りのことを気にしながら過ごしています。それで、様々な心の動きを気づか なかったことにして、心の底に溜めています。

そうして起きている間、気づかなかったり、押さえ込んで溜め込んでいたこ とが、寝ている間に、潜在意識からあらわれたものが夢ともいわれます。

短絡的ですが、コロナウィルス感染拡大防止のために外出したり、人と会う ことを自粛する生活が長く続いている状況の中で溜め込んでいた私の潜在 意識が、夢に出たのかと思いました。

●自我の心を見つめる

見たり、聞いたり、感じたものに、私たちは都合のよいものならばモット多く と欲しがり(資欲・むさぼり)、その反対のものならばあっちへ行けと嫌悪し(瞋 恚いかり)ます。

E毒の煩悩(貪瞋痴、貪欲と瞋恚と愚痴)といい、迷いの人間は、 この貪りと瞋りが満たされることを求め、返ってお互いの苦しみを深めてい て、その底にあるのは、自分さえよければいいという愚かさ、愚痴だと教えて います。

現実社会は、いや、現代社会も、自分の都合を求め、都合の悪いことを排除 する自己中心性の心をもとに動いています。この心は、人より多く持ち、争っ てでも奪い、そのための権力を求める姿になります。自分自身のことを振りか えれば、よく分かりますが、それを身をもって、毎日教えてくれるのは、政治家 の姿や行動ですね。

「軍人の誇りとするものは、必ず小児の玩具に似ている。(略)

芥川龍之介は、『侏儒の言葉』に、

しゅじゅ

あろう。| と痛烈な批判をしています。

現代でも、国の代表者が臆面も無く「自国中心主義」「都民ファースト」など

と主張しています。そして、自分たちにとって都合のよいことをした人を讃め

不思議である。なぜ軍人は酒にも酔わずに、薊章を下げて歩かれるので

たたえています。そこには、その行為は、相手の立場にとって、世界や地球に とって、いったいどういう意味合いがあるだろうかという問いかけは、残念なが ら、普段の私と同じように忘れ去っています。自分は正しいという意識ですね。 ところで、「緊急事態宣言や外出自粛要請が発令されるなかで、「自粛ポリ

ス』の存在感が日に日に増している。」(朝日新聞、2020年5月7日)という記

事が気になりました。「他罰する快楽」に溺れる人は、それによって、自分が「正

義」だと思っている自己中心性の自我が、自粛生活の不安、不満で、気づかぬ うちに攻撃性が高まり、「よそ者」への具体的暴力になると指摘していました。 十四世紀、ペスト感染の時代、ユダヤ人が井戸に毒を盛ったというでっちあ げ、二十世紀、関東大震災直後、朝鮮半島出身者が井戸に毒を撒いた、という

邪悪なウイルスとは新型コロナウイルスではない。差別や偏見というウ イルスである。|

たのだと思います。

新聞のコラム『中日春秋』欄の、

流言飛語は、どちらも忘れられない出来事です。

という指摘がありますが、深く傾聴すべきです。 もしも、自我の心のまま、自分中心、私ファーストで生きていたら、持ちつ持 たれつのこの世の中が成り立たなくなります。だからこそ、それを超えたもの

の見方や生き方、つまり、お陰さま、ありがとうという生き方が大切にされてき

りゅうみょう

「人類にはその邪悪なウイルスに対抗できる免疫が確かに備わっている。

●無くなったのはトイレットペーパー?

法輪』2020年6月号)

浄土真宗法善寺住職、武蔵野大学名誉教授の山崎龍明先生は、

と、親鸞さまは、自分が正義であるという主張をしないということを指摘し ています。 たとえば『歎異抄』第二条の末尾には、「このうへは、念仏をとりて信じたて まつらんとも、またすてんとも、面々の御はからひなりと〔云々〕。」にみられる

「親鸞聖人は特異なところがあって、『人々がこの教えを必要としていない」

なら広まらなくたっていいじゃないか』と考えるタイプの人でした。「(『大

現代の思想家ハラリ氏は、

言葉と重なると私は思いました。

「数百万人に手洗いを徹底させたい場合、人々に信頼できる情報を与えて 教育する方が、すべてのトイレに警察官とカメラを配置するより簡単で しょうし

これは、現代風の「面々の御はからい」ではないかと私は思いを巡らせてい

といいます。

ます。 お互いを認め合うことの大切さが見えてくるというのは、認め合えないよう

な自己中心の自我が私の中にあるのだと見えてくることと重なることかと 思っています。 最後に、奥田知志牧師の言葉が心に残ります。

他者性というのは、他者を思いに含めるということですね

「無くなったのはトイレットペーパーではなく他者性です!

釋靜芳(本多 靜芳)

合掌

※ご縁のあったあなた! 第一水曜午後四時から六時の法話会[ナムの会]で 『親鸞様·御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会 | で『親鸞様·御手紙』を学びにいらっしゃいませんか? お待ちしてます(会費 はいずれも資料・茶菓代として千円です)。

万行寺第十八世住職

「ナムの会」は一月と十二月は休会します。